

特集

手でみる絵本を展示する

— 学生企画：文学部横山ゼミ 手でみて楽しむ絵本展を開催して —



"Le petit chaperon rouge", デザイン：Warja Lavater, 出版：Les doigts qui rêvent 2008(左)

"Des vers de travers", Anette Diesen 作, 出版：Les doigts qui rêvent 2012(右上)

"はらぺこあおむし：点字つきさわる絵本", エリック・カール作, もりひさし訳, 出版：偕成社 2007(右下)

CONTENTS

■特集：手でみる絵本を展示する

— 学生企画：文学部横山ゼミ 手でみて楽しむ絵本展を開催して — 文学部准教授 横山佐紀

■中央大学 Diversity week 2019 推薦図書の展示に協力して 文学部教授 大田美和

■CHOISリニューアルのお知らせ

■第11回インターナショナル・ウィーク 企画展示「アフリカ探訪」を開催

■学部長、オススの一冊

■新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録（2019.4～2019.6収集分）

手でみる絵本を展示する

—学生企画：横山ゼミ 手でみて楽しむ絵本展を開催して—

文学部准教授 横山佐紀

2019年12月2日（月）から7日（土）にかけて、中央図書館2階展示コーナーにて、『手でみて楽しむ絵本』展が開催されました。中央大学には日本、およびフランスで出版された個性豊かな「さわる絵本」が20冊ほど所蔵されています。本展はこれらの資料を紹介することを目的に、「総合教養演習（1）」（横山ゼミ）の授業の一環として4名の文学部3年生によって企画され、中央図書館の全面的な協力のもと実現しました。

文学部に本年度から開講された「総合教養演習」は、13専攻を超えた領域横断的な演習です。横山ゼミは「ミュージアムと社会」をテーマとし、収集、展示という行為に含まれる問題を読み解き、ミュージアムという存在を批判的に考えることを目指しています。ミュージアム研究には、歴史学、美術史学、教育学、政治学などさまざまな分野がかかわるので、専攻の異なる学生が一緒に勉強するにはうってつけです。



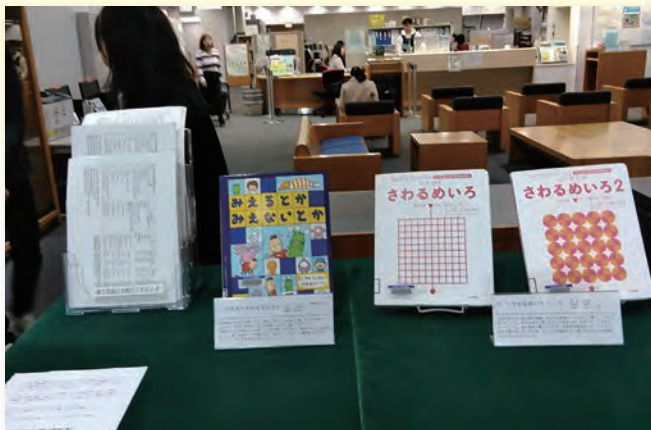
● ケース展示の様子

前期は共通のテキスト（川口幸也編『展示の政治学』水声社、2009年）の講読を中心に進め、後期は展示を作ること大きな課題としました。ミュージアムにとっては、実は企画展よりも常設展が重要です。というのは、どのようなモノを集めるかという

のはその館の方針やアイデンティティと深く関わっているからです。そこで、私たちの展示も中央大学が所蔵する資料を紹介することを目的に定め、他大学にはおそらく所蔵がなく、かつ中央大学が所蔵していることが学内でもあまり知られていない「さわる絵本」を取り上げることにしました。さわる絵本を展示することにしたのは、資料の紹介に加えて、ミュージアムが五感の中でも視覚が優位となる空間であり、視覚になんらかの問題を抱える人には排除の空間となってしまうという点を考慮してのことでもあります。多様な素材が使われ、カラフルで手ざわりもいろいろなさわる絵本は、見える人も見えない人も一緒に楽しむことができます。展示の準備として、視覚障害者とミュージアムのアクセシビリティについての文献を講読したうえで、日本点字図書館附属「ふれる博物館」を職員の方に解説していただきながら見学し、日本点字図書館ではさわる絵本のコレクションについて館長に説明をしていただきました。

展示企画にあたり教員が指定したのは、「所蔵資料およびさわる絵本を取り上げる」ということだけです。展覧会タイトルと展覧会コンセプトの検討、出品資料の選択、展示動線の決定、作品解説執筆など、展覧会を実施するために必要なすべての作業は、4名の話し合いによって進められました。具体的な作業分担は、チラシデザイン担当が富元奈々加さん（フランス語文学文化専攻）、プレスリリース担当が矢吹莉音さん（社会学専攻）、キャプション担当が本村将之さん（日本史学専攻）、展示レイアウト担当が稲川和樹さん（社会学専攻）です。出品資料の解説も、4名の学生が分担して書きました。視覚障害というトピックに配慮して、キャプションや作品リストにUDフォント（ユニバーサル・デザ

イン対応のフォント)を使うことを決めたのも学生です。展示作業や撤収は、全員で行いました。



● 実際に手に取ってもらえる本の展示の様子

展示には、日本で出版された資料5点、フランスで出版された資料6点が出品されました。さわる絵本ばかりでなく視覚障害や展示に関する所蔵図書から、ヨシタケシンスケさんの『みえるとかみえないとか』（アリス館、2018年）が、展覧会の最初の1点に選ばれたのも学生による工夫のひとつです。『みえるとかみえないとか』のあとには、ページ上に浮き出た線を指でさわりながら出口までたどり着く『さわるめいろ』シリーズ、『ぐりとぐら』、『はらぺこあおむし：点字つきさわる絵本』、フランスの出版社による五感で楽しむ絵本（ページに付いている鈴を鳴らすこともできます!）、文字をひとつも使わず手ざわりで物語を追う『あかずきんちゃん』などが続き、中央大学が所蔵する貴重で楽しい図書がバランスよく紹介されました。

通常、これらの図書は文学部総合教育科目共同研究室（多摩キャンパス3号館5階）に開架で所蔵されており、だれもが手に取ってみることができます。しかし会期中はセキュリティの問題から、ケース展示とせざるを得ませんでした。そのかわり、2日から6日までの5日間は、ケースから取り出して来場者が手に取ってみることのできる時間を設け、かつ、その時間中に、学生が必ずひとり1回10分間のギャラリートークを行うことにしました。来場者に展示の説明をするのは、展示を作った者の責務です。

ギャラリートークについては、出品資料のうちどれに焦点を当てるのか、何をテーマとするのかは各自にまかせることとしました。予定の10分に満たずに早く終わっ

てしまったり、かと思うと話したりなかったり。一方、展示に出ていない資料を用意して情報を補う工夫をしたりと、毎日個性あるトークが行われました。また、来場者が本を手に取りやすいよう、二日目からは当初のプランを変更し、展示ケースの前に長机を出して資料とキャプションを並べ、そこでトークをするようにしました。トーク開始前には学生が館内アナウンス。学生や教員、図書館職員のみなさんが各回に参加してくださったほか、美術館関係者も足を運んでくださり、学生に具体的なアドバイスをいただいたことも大きな刺激となりました。



● ギャラリートーク前に本を手にする来場者

一方で、反省もあります。それは、実は「なかなか足を止めてもらえない」ということです。広報については、図書館公式ツイッター、ホームページなどへの情報掲載のほか、スターバックスの電子掲示板を使った告知、プレスリリースのインターネット上での公開など図書館に全面的に協力していただき、担当教員も文学部ホームページに情報を掲載したり教授会で告知したりチラシを掲出したりしました。その結果、国立国会図書館ポータルサイト「カレントアウェアネス」（図書館・図書館情報学に関するトピックを紹介するサイト）に取り上げられるといったうれしいニュースもありました。しかし、図書館は本を読んだり借りたりする場所で「展示が行われる場所」とは認識されていないのか、足を止めてもらうことが難しかったのです。学生の積極的な声かけももっと必要だったかもしれません。あるいは、床の色を変えて「ここで何かをやっている」ということが一目でわかるような工夫も必要だったかもしれません。このあたりは、今後の課題ということになるでしょう。

教員・学生も、図書館も、授業と図書館が連携してひとつのプログラムを実施するのは初めての試みでしたが、十分な内容の展示ができたのではないかと思います。重要なことは、中央大学がすでにもっているリソースを再発見し、活用してもらうきっかけを学生自身が作ることです。学生たちの自主性、工夫と柔軟な対応に加えて資料のユニークさもあり、このミッションは充分に果たされたと考えています。

最後に、展示ケースに加え展示に必要な細かい道具を諸々ご用意くださったほか、学生との事前の打ち合わせ、広報から初日の展示作業に至るまで、さまざまなアドバイスと共に全面的にご協力くださり、私たちを温かく見守ってくださった中央図書館の職員の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

**学生企画:文学部横山ゼミ
手でもて楽しむ絵本展**

2019年12月2日(月)～12月7日(土)
中央図書館2階展示コーナー

👉 絵本を手でみるってなんだろう? 📖

中央大学にさわれる絵本があることを知っていますか?
『はらこあむし:点字つきさわる絵本』(エリック・カール作;もりひさし訳、偕成社、2007年)もそのひとつです。本展では、視覚障がいがある人もない人も一緒に楽しめるこれらの絵本を10点ほど、ふたつのプログラムと共に紹介します。手と目を使って絵本をみてみましょう!

【プログラム】 展示会場に直接お越しください。
①絵本を手でみてみよう!
以下の日時、絵本を手にとってご覧いただけます。
②ギャラリートーク
企画者による約10分のギャラリートークを行います。

12月2日(月) 17:10～18:40 (ギャラリートーク 17:20より)
12月3日(火) 13:30～15:00 (ギャラリートーク 13:40より)
12月4日(水) 13:30～15:00 (ギャラリートーク 13:40より)
12月5日(木) 12:40～13:10 (ギャラリートーク 12:50より)
12月6日(金) 12:40～13:10 (ギャラリートーク 12:50より)
※都合により急遽変更となる場合があります。

文学部教員横山ゼミ
展示企画者: 横山・高木・本村・矢野

● 手でもて楽しむ絵本展チラシ

Diversity Week 2019 に関連する資料展示を開催

「中央大学 Diversity Week 2019 推薦図書展示に協力して」 文学部教授 大田美和

2019年12月6日～14日に開催されたCHUOハラスメント防止啓発×Diversity Week 2019に合わせて、中央図書館2階展示コーナーで12月10日から21日まで、「障害／病



● 推薦図書展示の様子

気」、「ジェンダー／セクシュアリティ／LGBT」、「グローバル／インターナショナル／ダイバーシティ」の三分野について、教職員が推薦した図書やDVDなど約130点に加え、国際機関資料室所蔵の関連資料24点が展示された。

この中には卒業生の著作もあった。新井淑則『光を失って心が見えた:全盲先生のメッセージ』、岩本友規『発達障害の自分の育て方』、神初瀬勇輔『いま、絶望している君たちへ:パラアスリートで起業家。2枚の名刺で働く』、豪田トモ『オネエ産婦人科:あなたがあなたらしく生きること』、藤井輝明『あなたは顔で差別をしますか:「容貌障害」と闘った五十年』など8冊である。

展示期間中は多くの学生や教職員が足を止めて書籍を手にとっていた。私のおすすめは、『女性・スポーツ大事典』、『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』、『よくわかるスポーツとジェンダー』である。映画『福田敬子 女子柔道のパイオニア』の上映会では、これらの本を元にして学生た

ちが上映前トークとクイズを実施した。

映画「えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋」(2019年度毎日映画コンクール・ドキュメンタリー映画賞受賞作品)の上映会で学生たちが書いたコメントも掲示した。「生き方を考え直させられた。自分の出来ることのまだほんの一部の力しか使えていないのではないか」、「人が人に助けられる映画でした」、「お互いがお互いを必要とする関係をみて、介護のイメージが変わりました」、「『カッコ悪いところを見せ続けるカッコ良さ』は障害者運動の理念だと思いました!」などの感想があった。

2020年4月のダイバーシティセンター開設により、中央大学のダイバーシティ推進が本格的に始まる。今後はぜひ、学生の皆さんがこのような展示の企画や運営に積極的に関わって、ともに学び合う大学を作ることを期待している。



● 映画「えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋」上映会での学生コメント



※「中央大学Diversity Week 2019 推薦図書リスト」は中央図書館で配布中です。

上記QRコードからもリストをご覧いただけます。

CHOISリニューアルのお知らせ

2020年3月末より、CHOIS(中央大学図書館蔵書検索システム)が新しくなりました!



**新機能が
加わりました!**

- 貸出ランキング ● 貸出履歴
- E-Book・E-Journal 検索対象数がUP!
- 返却期限日お知らせメール※
- 予約図書利用可能通知メール※
- 文献管理ソフト「RefWorks」への出力
- 外部保管庫資料の取寄せ

※メールアドレスの登録が必要になります。

今までの機能もそのまま

- ・ 利用状況の確認
- ・ 貸出延長
- ・ 他キャンパス資料の取寄せ
- ・ ブックマーク
- ・ 書影・あらすじ・目次



第11回 インターナショナル・ウィーク

企画展示「アフリカ探訪」を開催

恒例の全学行事「インターナショナル・ウィーク」の開催に伴い、2019年11月18日(月)から28日(木)まで、中央図書館では今年のテーマ「アフリカ〜躍動するサブサハラアフリカの大地〜」にあわせた企画展示「アフリカ探訪」を行い、経済成長が著しく世界中から注目を集めるアフリカについて、その文化・経済・自然などを幅広く伝える資料約25点を展示しました。

4階開架閲覧室の中央階段前では、“文化”をテーマに、文学・紀行文・伝記・ファッション・民俗学・芸術に関する図書を展示しました。アフリカ各地にある世界文化遺産については、大判の写真集を設置して、その貴重な遺産群を詳しく鑑賞できる機会を設けました。また、興味を持った本は自宅でゆっくり読めるよう、展示資料の貸出も行いました。

2階の国際機関資料室前では、“Innovation and Technology”と題し、現代のアフリカ経済を象徴する国連資料を展示しました。

“Innovation and Technology”はアフリカの未来を語る際のキーワードで、国連事務総長のグテーレス氏が演説などで取り上げています。展示では、欧米での留学や出稼ぎの後、祖国アフリカに戻り起業した実業家の成功事例などを紹介しました。



学部長、オススの一冊

学生のみなさんへお薦めしたい図書を一冊選んでいただきました。
中央図書館2階、理工学部分館、国際情報学部図書室で展示します。

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、各図書館（室）の展示期間は2020年3月現在未定です。決定しましたら図書館HPや各図書館（室）掲示にてアナウンスいたします。

法学部長 猪股 孝史 教授



『福沢諭吉の「学問のすゝめ」』

橋本治著 幻冬舎 2016年
配置場所 開架 002/H38、理開 002/H38、iTL 002/H38

あまりにも著名な福沢諭吉の「学問のすゝめ」であるが、その読み解きかたを指南するのが本書である。明治期の文章であることもあり、読めば解るだろうというほど実は容易ではない。当時の時代背景や言葉の意味など、橋本治の博学ぶりを随所にちりばめながら、「学問」をすることの意味を明らかにする。お薦めである。



経済学部長 山崎 朗 教授



『人間の経済』

宇沢弘文著 新潮社 2017年（新潮新書）
配置場所 開架新書 新潮新書 / 713、理開小型 331/U99、iTL 新潮新書 / 713

今から30年以上前、東京大学経済学部の廊下で宇沢先生とすれ違った。顎鬚という独特の風貌もあり、不思議なオーラを感じた。宇沢先生は、東京大学、新潟大学を定年後、中央大学経済学部教授になられ、私も今、中央大学で教えている。この本からサステナブルな人間の経済、地球の経済を考えるヒントを得てほしい。



商学部長 渡辺 岳夫 教授



『悲しみの歌』 改版

遠藤周作著 新潮社 2003年（新潮文庫）
配置場所 開架文庫 新潮文庫 / え-1-14、理開小型 913.6/E59、iTL 新潮文庫 / え-1-14

人は弱い。そして時に悲しく、ずるい。そんな人の世のなかでも、暗い片隅で地べたに這いつくばるように健気に生きる人たちがいる。その姿は胸をうち、それでもやはり生きていこうと思わせてくれる。『海と毒薬』の続編にあたる。前編に比べて知名度は低いが、それよりもずっと奥が深い。学生時代に是非読んでおいてもらいたい本の一冊である。



理工学部長 櫻山 和男 教授



『医者、用水路を拓く —アフガンの大地から世界の虚構に挑む—』

中村哲著 石風社 2007年
配置場所 開架 333.8262/N37、理開 333.8262/N37、iTL 333.8262/N37

医療活動のために赴任したアフガンニスタンで、病気を治すより病気の原因となっている不衛生な水問題を解決することが先決と考え、自らが重機を操り苦難の末に用水路を築くまでの実話。「平和とは決して人間同士だけの問題でなく、自然との関わり方に深く依拠している」という著者（昨年末の襲撃事件により故人となられた）の言葉が心に響く。





文学部長 宇佐美 毅 教授

『ツバキ文具店』

小川糸著 幻冬舎 2016年
配置場所 開架 913.6/024、理開 913.6/024、iTL 913.6/024

皆さんは、心のこもった手書きの手紙、年月が経っても忘れられない手紙を貰った経験がありますか。「あの人はこういう字を書くんだった」「どんな気持ちでこの便箋や封筒を選んだのだろう」と心をときめかしたことがありますか。それは人生においてとても重要な経験です。手書きの手紙を書く人はもう少数ですが、この本はそんな手紙の美しさを思い出させてくれます。



総合政策学部長 青木 英孝 教授

『データ分析の力 —因果関係に迫る思考法—』

伊藤公一朗著 光文社 2017年(光文社新書)
配置場所 開架 417.5/189、理開小型・理開指定 417/189、iTL 417.5/189

今はビッグデータの時代。ビジネスの世界では、需要予測やマーケティングなどにデータが活用されています。また、証拠に基づく政策立案(Evidence Based Policy Making)と呼ばれるように、実は政策の効果もデータによって検証されています。本書は、因果関係に焦点を当て、分析の基本的な考え方を、数式を使わず分かりやすく解説している良書です。

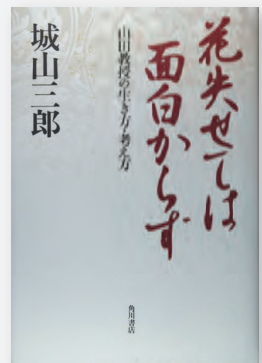


国際経営学部長 河合 久 教授

『花失せては面白からず —山田教授の生き方・考え方—』

城山三郎著 角川書店 1996年
配置場所 中央書庫 331/Sh89、理開 331/Sh89

世間の不条理を知り始めた学生時代に出逢いたかった一冊である。学問や社会に潜む対立する思想・価値に存在する矛盾に対してどのように合意を見出すのか、社会で生きる以上、人はこの難題から逃れることはできない。この本を20年以上手放せないのは、歳を重ねるほどに城山三郎の解釈に共感できる場面に遭遇するからである。



国際情報学部長 平野 晋 教授

『われはロボット』 決定版

アイザック・アシモフ著：小尾英佐訳 早川書房 2004年(ハヤカワ文庫SF)
配置場所 開架 933/A92、理開小型 933/A92、iTL 933/A92

映画「アイ, ロボット」(Twentieth Century Fox 2004年)の原典。収録短編「うそつき」が特にお勧め。職場の職員達から個別に悩みを打ち明けられたロボットが、全員に対して嘘(うそ)を吐(つ)かざるを得なくなり追い詰められる。「ロボットは人に危害を加えてはならない」という「ロボット工学第一原則」が、嘘を吐いた理由...これ以上書くとネタバレになるので是非お読み下さい(笑)。



※映画「アイ, ロボット」は映像言語メディアラボで利用できます。

配置場所
について

開架：中央図書館4階、中央書庫：中央図書館書庫(多摩キャンパス)
理開：理工学部分館5階(後楽園キャンパス)

iTL：国際情報学部図書室(市ヶ谷田町キャンパス)
映像言語メディアラボ：多摩キャンパス2号館1階

新収資料紹介

教職員著作目録 2019.4-2019.6 配架図書一覧 ()は所属学部等

著者名		書名	出版社	出版年月	配置場所	請求記号
新井 誠 (法), 岡 伸浩	編	民法講義録 改訂版	日本評論社	2019.3	中央書庫/開架	324/A62
井田 良 (法務), 鈴木 彰雄 (法), 高橋 直哉 (法務), 只木 誠 (法), 曲田 統 (法), 安井 哲章 (法)	著	刑法ポケット判例集	弘文堂	2019.3	開架/市ヶ谷法務	326.098/118
伊藤 伸介 (経)	著	小学生まちゃんと学ぶ統計	中央経済社	2019.5	中央書庫/開架	350.1/189
植野 妙実子 (名)	著	基本に学ぶ憲法	日本評論社	2019.4	中央書庫/開架	323.14/U45
遠藤 研一郎 (法)	著	はじめまして、法学：身近なのに知らなすぎる「これって法的にどうなの？」	ウェッジ	2019.4	中央書庫/開架	321/E59
中央大学人文科学研究so 大田 美和 (文), 長島 佑恵子 (法), 森岡 実穂 (経) ほか	編 執筆	読むことのクィア	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	902.9/C66
岡嶋 裕史 (国情)	著	プログラミング教育はいらない：GAFAで求められる力とは (光文社新書 991)	光文社	2019.2	開架/国際情報	375/O39
岡嶋 裕史 (国情)	著	情報セキュリティスペシャリスト合格教本 平成28年度 春期 秋期	技術評論社	2016.1	国際情報	007.6/O39
岡嶋 裕史 (国情)	著	情報セキュリティマネジメントポケット攻略本：要点早わかり	技術評論社	2018.2	国際情報	007.6/O39
岡嶋 裕史 (国情)	著	要点早わかり情報セキュリティスペシャリストポケット攻略本	技術評論社	2013.3	国際情報	007.6/O39
岡嶋 裕史 (国情)	著	要点早わかり情報処理安全確保支援士ポケット攻略本	技術評論社	2017.2	国際情報	007.6/O39
岡嶋 裕史 (国情)	著	要点早わかりネットワークスペシャリストポケット攻略本	技術評論社	2015.4	国際情報	007.6/O39
奥田 安弘 (法務)	著	国際財産法 = Private international law in business	明石書店	2019.2	開架/市ヶ谷法務	329.82/O54
加藤 新太郎 (法務), 松本 明敏 ほか	編集	裁判官が説く民事裁判実務の重要論点 名誉毀損・プライバシー侵害編	第一法規	2019.2	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.2/Ka86
加藤 新太郎 (法務) 前田 恵三 ほか	編 著	民事訴訟実務の基礎 記録篇・解説篇	弘文堂	2019.3	開架/市ヶ谷法務	327.2/Ma26
川畠田 敦子 (文)	著	東欧からのドイツ人の「追放」：二〇世紀の住民移動の歴史のなかで	白水社	2019.4	中央書庫/開架	234.075/Ka94
木立 真直 (商)	編	卸売市場の現在と未来を考える：流通機能と公共性の観点から (筑波書房ブックレット：暮らしのなかの食と農 61)	筑波書房	2019.2	中央書庫/開架	675.5/K112
日本農業市場学会 木立 真直 (商) ほか	編 執筆	農産物・食品の市場と流通	筑波書房	2019.3	開架	611.4/N77
小畑 郁, 江島 晶子, 北村 泰三 (法務) ほか	編集	ヨーロッパ人権裁判所の判例：Essential Cases of the European Court of Human Rights 2	信山社出版	2019.3	中央書庫/総合政策	329.21/To63
小杉 末吉 (法)	著	ロシア・タタルスタン権限区分条約論 (日本比較法研究所研究叢書 117)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	329.15/Ko89
今 まど子 (名), 小山 憲司 (文)	編著	図書館情報学基礎資料 第2版	樹村房	2019.3	開架/社会情報	MO10.1/Ko71
酒井 克彦 (商)	編著	キャッチアップ仮想通貨の最新税務：30年分申告・31年度改正対応	ぎょうせい	2019.2	開架	336.9/Sa29
椎橋 隆幸 (名)	著	刑事手続における犯罪被害者の法的地位	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	327.6/Sh32
守山 正 四光 光 (法) ほか	編著 執筆	ストーキングの現状と対策	成文堂	2019.3	中央書庫	326.24/Mo73
三友 仁志 実嶺 寿也 (総) ほか	編著 執筆	大災害と情報・メディア：レジリエンスの向上と地域社会の復興に向けて	勁草書房	2019.3	中央書庫/国際情報	369.3/Mi62
清水 充洋 (商), 谷口 明丈 (商), 関口 定一 (商)	編	団塊の世代の仕事とキャリア：日本の大企業における大卒エリートのオーラル・ヒストリー (中央大学企業研究所研究叢書 40)	中央大学出版部	2019.1	中央書庫/開架	335.2/Sh49
倉橋 洋子, 高尾 直知 (文) ほか	編著	繋がりの詩学：近代アメリカの知的独立と「知のコミュニティ」の形成 = The poetics of association : the formation of intellectual communities in modern America	彩流社	2019.2	中央書庫/開架	930.29/Ku51
千葉 謙恒 (経), 熊 達 三省堂編修所	監修 編	ベーシッククラウン中日・日中辞典	三省堂	2019.3	参考	D823/Sa66
津野 義堂 (法)	著	法知の科学 2018	津野文庫	2018	中央書庫/開架	322/Ts81
新原 道信 (文)	編著	“臨床・臨床の智”の工房：国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究 (中央大学社会科学研究所研究叢書 38)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	361.48/N72
ビエール=イヴ・モンジャル 西海 真樹 (法)	著 訳	欧州連合・基本権・日欧関係：ビエール=イヴ・モンジャル教授講演集 (日本比較法研究所訳叢書 B3)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	329.37/Mo33
西川 広平 (文)	研究 代表者	自然災害の記録化と伝承・信仰に関する研究	西川広平	2019.3	日本史	210.17/N83
本沢 巳代子, 新田 秀樹 (法)	編著	トピック社会保障法 2019 第13版	不磨書房	2019.4	中央書庫/開架	364/Mo93
橋本 基弘 (法)	著	日本国憲法を学ぶ 第2版	中央経済社	2019.3	中央書庫/開架	323.14/H38
八田 幸二 (経), 佐藤 拓也 (経), 武田 勝 (経)	著	攻略!!日本経済 改訂2版	学文社	2019.1	中央書庫/開架	332.106/H43
服部 龍二 (総) クラ・キャンソ	著 訳	Understanding history in Asia : what diplomatic documents reveal	出版文化産業 振興財団	2019	中央書庫/開架	327.52/H36
星野 智 (法)	編著	グローバル・エコロジー (中央大学社会科学研究所研究叢書 37)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	519.5/H92
細野 助博 (名)	編著	東京二都物語：郊外から都心の時代へ (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 25)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	302.1/C66
升田 純 (法務)	著	判例にみる損害賠償額算定の実務 第3版	民事法研究会	2019.3	中央書庫/ 市ヶ谷法務	324.55/Ma66
水上 雅晴 (文), 石 立善	主編	日本漢学珍稀文献集成：年號之部	上海社会科学院 出版社	2018.1	哲学	MO81.7/Mi95
宮間 純一 (文)	研究 代表者	多摩川流域所在アーカイブスの情報集約・公開に関する調査・研究：地域持続のために	宮間純一	2019.3	日本史	517.21/Mi77
中央大学人文科学研究so 宮丸 裕二 (法), 福西 由実子 (商), 秋山 嘉 (法) ほか	編 執筆	英文学と映画	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	930.4/C66
中央大学保健体育研究so 村井 則 (法), 加納 樹里 (文), 宮崎 伸一 (法) ほか	編	健康スポーツ50講	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	780.1/C66
山口 真美 (文), 金沢 創	著	赤ちゃんの視覚と心の発達 補訂版	東京大学出版会	2019.4	中央書庫/開架	376.11/Y24
山崎 朗 (経) 戸田 順一郎 ほか	編著 著	地域産業のイノベーションシステム：集積と連携が生む都市の経済	学芸出版社	2019.2	中央書庫/開架	601.1/Y43
山田 省三 (名), 新田 秀樹 (法), 米津 孝司 (法務), 川田 智子 (法) ほか	編集	現代雇用社会における自由と平等：24のアンソロジー - 山田省三先生古稀記念	信山社	2019.3	中央書庫/開架	366.04/N88
横山 彰 (総)	編著	日本社会の持続可能性と総合政策 (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 24)	中央大学出版部	2019.3	中央書庫/開架	302.1/C66
吉秋 馬加 渡辺 新一 (名)	著 訳	アイデンティティ	思潮社	2018.1	中央書庫/開架	921.7/K111
曾和 俊文, 山田 洋, 亘理 格 (法)	著	現代行政法入門 第4版	有斐閣	2019.3	中央書庫/開架	323.9/So93

* (法):法学部、(経):経済学部、(商):商学部、(理):理工学部、(文):文学部、(総):総合政策学部、(国経):国際経営学部、(国情):国際情報学部、(法務):法務研究科、(戦略):戦略経営研究科、(研):研究開発機構教授、(名):名誉教授
* スペースの都合上、配置場所は2ヶ所まで表記している。

